

令和 5 年度 学校評価について

阿南市立橘小学校

1 令和 5 年度学校教育目標等について

令和 5 年度、本校は「ともに生きる力としなやかに伸びる力をもち、たくましく夢を追求する児童の育成」を学校教育目標に掲げ、「笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる楽しい学校」、「自ら学び、考え、行動する児童」、「語り合い・認め合い・高め合う活力ある教職員集団」の実現を目指し、次の五つを努力事項に掲げ、教育活動に取り組んでまいりました。

- 1 学力の向上・・・タブレットを活用した授業・自主学習ノート・読書活動の充実、表現力の育成
- 2 豊かな心の育成・・・挨拶・返事・感謝の言葉の徹底、人権教育・道徳教育の充実、豊かな体験活動
- 3 体力の向上・・・めあてをもった体力づくり、歩いて登校・外遊びの奨励、早寝・早起き・朝ご飯の推進
- 4 安心・安全の確保・・・防災教育の推進、交通安全の徹底、いじめ・不登校ゼロをめざす生徒指導
- 5 保護者・地域との連携・・・保護者・地域へ積極的な情報発信、教育相談の充実、地域関係機関との連携

そして、これらの取組の結果、めざす学校・めざす児童・めざす教職員集団は実現できたのか、どのような成果と課題があったのか、来年度に向けてどのように課題を解決していけばよいのか、児童・保護者の皆さんや教職員へのアンケート結果を分析し、課題を明らかにし、来年度の学校経営方針に生かすことを目的として、学校評価を行いました。

2 令和5年度学校評価について

学校評価は、児童・生徒がよりよい教育活動を教授できるよう、学校運営の改善と発展を目指し、教育の水準と向上を図ることを目的として行います。これまでも橘小学校では、教職員が行う「自己評価」、保護者が行う「学校関係者評価」、児童による評価を実施し、学校運営について評価・改善を図ってきましたが、本年度、改めて「**学校目標達成に向けての評価項目 三者一覧表**」を作成し、児童・保護者・教職員が一丸となって、学校教育目標達成を目指していこうと考えました。具体的には、子どもたちには「めざすこと」が達成できているか、保護者には自分の子どもたちが「めざすこと」の達成ができているか、また達成させるための働きかけができているか、についてアンケートを実施するとともに、教職員には子どもたちの「めざすこと」の達成に向けてどのような手立てができたか教員評価（自己評価）を行いました。

今年度から、アンケート・自己評価への回答はタブレット端末やスマートフォンを利用した **Web 上でのオンライン回答方式に変更**し、回答者・集計者の利便を図りました。1月12日（金）、学校評価アンケート実施についてのお願いを保護者宛に出し、1週間をアンケート実施期間としました。教職員も同期間に実施し、児童については冬休み明けの1月9日（火）から1月19日（金）の朝の活動の時間に、タブレット端末から回答してもらいました。回答率は、児童は 93.8%(61/65)、保護者は 84.6%(55/65)、教職員は100%(16/16)でした。

3 学校評価アンケート結果(9 ページ～20 ページ)

4 アンケート結果の考察

(1) 児童の生活に関して昨年度との比較（児童・保護者による評価）

※「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた児童・保護者の割合

| アンケート項目 | R4児 | R5児 | R4保 | R5保 |
|-------------------------|-----|-----------|-----|------------|
| ① 学校が楽しい。 | 97 | 92 | 91 | 96 |
| ② 早寝・早起きができている。 | 88 | 72 | 81 | 97 |
| ③ 朝食を食べている。 | 98 | 94 | 98 | 99 |
| ④ 歩いて登校している。 | 75 | 46 | 65 | 53 |
| ⑤ 毎日宿題をしている。 | 98 | 93 | 96 | 91 |
| ⑥ 自主勉強や読書をしている。 | 65 | 69 | 74 | 76 |
| ⑦ 漢字の読み書き・計算・音読ができる。 | 93 | 87 | 88 | 85 |
| ⑧ タブレットを使うことで学習が分かりやすい。 | 92 | 79 | | 51 |
| ⑨ 当番・係活動・掃除ができている | 94 | 90 | 67 | 71 |
| ⑩ 挨拶や返事ができている。 | 95 | 94 | 88 | 89 |
| ⑪ きまりやルールを守って生活している。 | 98 | 89 | 95 | 100 |
| ⑫ 学校のことをよく話している。 | | 86 | 88 | 89 |
| ⑬ 災害発生時の行動の仕方が分かる。 | 100 | 93 | 77 | 91 |
| ⑭ 授業の内容が分かる。 | 100 | 95 | | 91 |
| ⑮ 先生はがんばったことをほめてくれる。 | 100 | 90 | | 89 |
| ⑯ 外遊びや体力づくりをしている。 | 93 | 90 | | 73 |
| ⑰ 自分の命や人権を大切にしている。 | 100 | 94 | | 95 |
| ⑱ 話をしたり聞いてくれたりする友達がいる。 | 100 | 93 | | 95 |
| ⑲ 阿南市や橘町が好きだ。 | 98 | 89 | | 89 |
| ⑳ 学校で勉強したことを生活の中で使っている。 | 96 | 91 | | 87 |
| ㉑ 将来の夢をもち、がんばっている。 | | 77 | | 60 |

※ /は昨年度にはなかった評価項目。

全体的に「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた児童が昨年度より減少していることは大きな課題と受け止めています。

特に、①の「学校へ行くのが楽しい」と答えた児童が5%もダウンしていることを大きく受け止めており、5名の児童が「楽しくない」と感じている要因を取り除くことが急務です。友達関係、教師との関係、授業内容が理解できているか、自分らしさが認められているか、自己有用感はあるか、学校に心の居場所があるか等々、今一度学級の子どもたちの実態を見つめ直し、いじめアンケート等も活用して原因を明らかにし、一人一人の子どもに寄り添った指導をするとともに、子どもたちにとって魅力的な学校づくりに取り組んでまいります。

健康・安全な生活と体力の向上、という観点から②③④⑥の結果をみますと、②「早寝・早起きができている」と④「歩いて登校している」の結果がよくないことが目立ちます。「早寝・早起き」については、保護者の97%が「早寝・早起きをしている」と答えているのに対して、「できている」と答えている児童の割合は72%で、保護者と児童の意識のずれが見られました。子どもたちが早寝・早起きができていない原因として、就寝前にテレビやスマホ、ゲーム画面などを見て、脳が覚醒してしまい、床

についてもなかなか寝付けないといった状況があるのではないかと考えています。また、昼間しっかり外遊びをするなどして身体を動かしていないことも考えられます。今後、子どもたち自身が、睡眠の大切さを理解するとともに、よい睡眠をとるために生活習慣を整えようとする意欲をもてるよう、保健指導と家庭への啓発に力を入れていきたいと思っています。

「歩いて登校している」と答えた児童の割合が格段に低くなりました。ほぼ半数の児童が、毎日歩いて登校していません。交通事情やご家庭の事情、また児童自身の体調等もありますので、「毎日歩いて登校しています」とは回答できなかったものと思われます。交通安全を考慮すると、保護者の車による送迎はありがたいことでもあります。一方で、子どもたちの体力づくりや早起きの習慣づくりという面からは、徒歩通学も価値があります。がんばれるときは徒歩通学に挑戦し、体育や外遊びでしっかり体力をつけるという方針で、学校での体力づくりにもっと力を入れていきたいと思っています。

学力向上という観点から、⑤⑥⑦⑧⑭⑳の結果をみますと、⑥「自主勉強や読書が自分から進んでできている」と答えた児童の割合が、わずかに上がっているものの、⑤「毎日の宿題を忘れずにできている」⑦「習った漢字の読み・書き、計算や音読ができる」と答えた児童の割合が下がっています。やはり、どの学年も宿題として漢字・計算・音読がほぼ毎日出されています。これらに毎日真面目に取り組むことで、基礎・基本の力が身に付くと考えます。宿題の内容や評価の仕方を工夫したり、「家庭学習の手引き」を分かりやすくしたりして、子どもたちが意欲的に取り組めるようにしてまいります。

⑭「毎日の授業が分かりやすい」、⑳「学校で勉強したことを生活の中で使っている」と答えた児童が90%を超えているのに対して、⑧「タブレットを使うことで学習が分かりやすい」と答えた児童の割合が79%となっています。これは、タブレットはあくまで文具の一つであって、調べ物をしたり考えをまとめたり、教師から教材を受け取ったりする道具であり、タブレットを使うだけで授業の内容理解が深まるのではないことを示していると考えます。やはり、児童の思考の流れに沿った授業展開や児童の実態に合った教材の準備といった、教師の授業の工夫が最も大切です。授業のねらいを達成するために、本当にタブレットを活用することが必要なのか、活用するのであればどのように活用することが効果的であるか、教員がもっと教材研究と授業準備をする必要があると考えます。来年度の大きな課題とします。また、「ミライシード」（ベネッセ社）というアプリケーションの中の「ドリルパーク」を日々の宿題に出している学校があります。災害発生時等、児童が学校に来られないときに、学校からオンラインで宿題の指示等を送ることができるので、こういった宿題になれておくことも必要ではないかと考えます。

道徳性の向上という観点から、⑨「当番・係活動・そうじを一生懸命している」、⑩「挨拶・返事・ありがとうができています」、⑪「きまりをまもって生活している」の結果をみますと、ほぼ90%の児童が「できている」と答えていますが、昨年度より数字は下がっています。朝の挨拶に関してはどの児童も大変よくできています。「はい」という返事はまだ十分ではありませんが、「ありがとう」と言う言葉も学校のあちこちでよく聞かれます。まずは、大人が言うてみるのが大切だと考えています。学校では掃除も一生懸命できています。スポーツ集会前の運動場の草抜きや石拾い、桜坂の定期的な落ち葉拾いも本当に一生懸命できています。家庭でも何か役割を与えてお手伝い等に取り組ませただけだと、子どもたちの自己有用感が高まるのではないかと考えています。

また、⑮「先生はがんばったことをほめてくれる」と答えた児童が90%いましたが、昨年度より数字

が下がっていることが気になりました。せっかくがんばって、挨拶をしたり掃除をしたりしても、タイミングよく教師にほめてもらえないと、子どもたちのやる気は下がってしまいます。望ましい行動ができたとき、すかさずほめる、と言うことを繰り返し、児童の自己有用感を高めていきたいと思います。

⑬「自分のことを大切にしている」、⑭「話をしたり、話を聞いてくれたりする友達がいる」と答えた児童が90%をこえていますが、4名の児童が自分を大切に思っていない、5名の児童が、話がよくなる友達がいないと答えていることが大変気になりました。「あなたがいてくれて嬉しい」「あなたがいるから学級は楽しい」ということを教師は常に伝え続け、子どもたち全員が「自分大好き」と言えるようにしていきます。また、子どもたち同士のコミュニケーションを活性化し、互いのよさを認め合う人間関係を育てていきます。

⑮「地震や津波の時の避難の仕方が分かり、行動できる」と答えた児童が 93%で、昨年より 7%低くなっています。今年度も自主防災会の皆さんのお力を借りて、様々な防災教育に取り組みましたが、実際に災害が起きたときに避難できる自信が十分ではない児童がいるようです。実践的な避難訓練を重ねていきたいと考えます。

⑯「阿南市や橘町が好きだ」と答えた児童は89%でした。100%の児童が「好きだ」と答えるようにするため、もっと「ふるさと学習」に力を入れていきます。来年度は創立 150 周年を迎えることもあり、子どもたちが橘小学校や橘町のことをもっと知り、もっと好きになるチャンスと捉えています。コロナ禍前に実施していた、オリエンテーリング的なものも復活できないかと考えています。ぜひ、150 周年記念事業を起爆剤として、子どもたちにふるさとのよさを実感させたいと考えます。

⑰「将来の夢を叶えるためがんばっている」と答えた児童の割合は77%と他の他低く、今年度の学校教育目標としていただけない、大変反省をしております。年度初めや学期はじめ、年の初めに子どもたちがめあてを書きますが、そこにはしっかりと将来の夢を意識しためあてや目標が書かれていました。しかし、将来の大きな夢と毎日がんばっている勉強などがすぐには結びつかず、めあてや目標が守れなかったのかもしれませんが。あるいは、夢に向かってどんな目標を立てたらよいのか分からないのかもしれませんが。そもそも夢をもつことができていないのかもしれませんが。今後は、様々な分野で活躍されている方や地域でがんばっている方をゲストティーチャーにお招きするなど、「こんな仕事をしたいなあ」「こんな職業につきたいなあ」「こんな人になりたいなあ」と児童が憧れを持っているようなキャリア教育にも力を入れていきたいと思っています。

(2)学校の取組に関して昨年度との比較(保護者による評価)

※「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた保護者の割合

| アンケート項目 | R4保 | R5保 |
|---|-----|-----------|
| ②学校は、学力向上や学習の定着のために熱心に取り組んでいる。 | 91 | 87 |
| ③学校は、子ども一人一人を大切にし、子どもの発達に応じて人権意識を育てている。 | 91 | 97 |
| ④学校は、命を大切にし、健康な体づくりのための教育活動に取り組んでいる。 | 98 | 97 |
| ⑤学校は、いじめや不登校の防止とその対応を適切に行っている。 | 89 | 87 |
| ⑥学校は、防災教育や安全対策を適切に行っている。 | 100 | 100 |
| ⑦学校は、学校だよりや学年だより、ホームページなどで学校の様子が学習の内容を保護者や地域に分かりやすく伝えている。 | 93 | 97 |

②の学力向上の取組について、「熱心に取り組んでいる」と答えた方の割合が下がっています。学力向上実行プランに基づき、タブレットを用いた調べ学習や発表力の育成、視写タイムや子ども新聞タイムなどの積み重ねによる読み・書きの力の定着、音読発表や行事作文による表現力の育成、「学習の手引き」に基づく自主学習ノートの推進などに取り組んできましたが、その内容や成果を保護者の皆さんに十分に伝えられなかったことを反省しています。今後も、教材を工夫して児童一人一人が分かる授業を展開するとともに、家庭学習の仕方を児童に指導したり、基礎・基本となる読み・書き学習を継続したりして、児童の学力向上に努めてまいります。合わせて、児童の学習の様子についても学校だより等で発信してまいります。

③の豊かな心の育成について、肯定的に答えた方の割合が上がっています。「挨拶・返事・ありがとう」を徹底するため、PBS(ポジティブな行動支援)に全校で取り組みましたが、子どもたちの朝の挨拶や「ありがとう」の言葉が学校中に響きわたるようになりました。また、人権委員会による挨拶運動や「ありがとう」のメッセージカードの取組により、相手を大切にする気持ちを児童の中に育むことができたと考えております。さらに、「ふわふわことば」(相手を認め大切にする言葉)を使うことで互いに認め合う気持ちを育むことができたのではないかと考えております。今後も、一人一人の子どもたちを大切にする温かい学校経営に取り組んでまいります。

④の体力向上に関する取組について、97%の方が肯定的に評価してくださっています。コロナ禍が明け、阿南市小学校水泳記録会、陸上記録会、県小学校体操発表会や阿南市小学校一輪車大会などへの参加に向けての練習や耐寒かけ足、県キッズ&ジュニアわんぱくランキングへの挑戦など、めあてをもった体力づくりの成果は大きいものがありました。今後も、具体的なめあてを設定した体力作りはもちろん、登校後や休み時間の外遊び、縦割り班活動を利用した定期的な外遊びを推進し、子どもたちの体力向上に取り組みたいです。

⑤のいじめや不登校への対応については、87%の方が肯定的な評価をしてくださっていますが、13%の方が十分ではないと答えておられます。今年度は、大きないじめ事案は発生していませんが、「友だちに嫌なことを言われた」といった訴えを子どもたちから聞くことができました。すぐに担任や生徒指導担当者が話を聞き、相手の児童と話し合い、解決してきましたが、子どもたちの気になることについては迅速に保護者の皆さんと情報共有を図るなど、いじめの未然防止・早期発見・早期解

決に引き続き努力してまいります。

②⑥の防災教育・危機管理については、100%の方が本校の防災教育や安全対策について肯定的に評価してくださっています。今後とも、子どもたちが安心・安全に過ごすことができるよう、施設・設備の点検や修繕、不審者対策や自然災害を想定した避難訓練、食物アレルギー対策、生活安全や交通安全の指導に努めてまいります。また、地域と連携した防災教育をさらに深化させてまいります。

②⑦の保護者や地域との連携については、96%の方が学校だよりやホームページなど、学校の情報発信を肯定的に評価してくださっています。今後も学校の教育活動について、積極的に情報発信するとともに、一人一人の子どもについて担任から保護者へのきめ細やかな連絡をして情報共有を図るといった、基本的なことを徹底し、保護者から信頼される学校づくりをめざします。大きな地震等が発生した場合の安否確認の方法について複数の方法を検討し、早急に保護者と共有したいと思っております。

(3)学校運営に関して昨年度との比較(教職員による自己評価)

※「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた教職員の割合

| アンケート項目 | R4 | R5 |
|---------------------------------|----|------------|
| ②⑧学校運営に職員の意見が反映されている。 | 93 | 100 |
| ②⑨職員会、終礼などが機能している。 | 93 | 100 |
| ③⑩気軽に相談し合える人間関係ができています。 | 87 | 93 |
| ③⑪問題行動が起こったとき、組織的に対応できている。 | 73 | 100 |
| ③⑫校内研修で学んだことが実践に役立っている。 | 93 | 100 |
| ③⑬業務の効率化、最適化に取り組んでいる。 | 80 | 93 |
| ③⑭ワークライフバランスに留意し、働き方改革に取り組んでいる。 | 87 | 100 |

すべての項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた教職員が昨年度より増加しています。「語り合い、認め合い、高め合う活力ある教職員」をめざす教職員の姿として掲げ、情報共有と組織的対応の徹底、何でも話せる「風通しのよい職員室」の実現、助け合い・支えあう「お互い様精神」の推進、若手・中堅・ベテランが互いに学び合う職員室文化の実現に、教職員が一丸となって取り組んできた成果だと考えております。

一方で、③⑩の「気軽に話し合える人間関係」、③⑬の「業務の効率化、最適化」について、十分ではないと答えている教職員が7%おりました。困ったときにタイミングよく、すぐその場で助け合える人間関係、互いの仕事内容をよく知る職場風土、職員が落ち着いて雑談や対話ができる時間の捻出等が十分ではなかったと反省しています。また、小規模校ゆえに、全教職員が複数の校務を抱えている状況にあり、校務に関する企画・提案・運営、調査・報告の提出、研修や会合への出張等が重なり、負担感があったものと思われます。優先度の高い、教材研究・授業準備、児童の指導や保護者対応等にしっかり時間を割けるよう、校務の効率化、不要な校務の削減等について全教職員で知恵を絞り、教職員が心身のゆとりをもって働くことができるよう、実効性のある働き方改革に取り組んでまいります。

5 学校運営協議会の実施

これらの結果をもとに、令和6年2月22日（木）に第2回学校運営協議会を開催し、委員の皆様からは次のような意見をいただきました。

- ・ 資料が大変分かりやすくなったが、負担が大きいであろうから、資料作成に時間をかける必要はない。しっかり児童と向き合う時間を確保してほしい。
- ・ 学校は「がんばらない勇気」「やめる勇気」をもって働き方改革に取り組んでほしい。
- ・ 児童の読書意欲を高めるため、静かに読書できる環境として、独立した図書室増築を要望してはどうか。現在の吹き抜けホールに位置する図書ホールでは音が響いて、読書に集中できない。
- ・ 歩いて登校することは一生を通じての基礎・基本となるので、引き続き推奨してほしい。
- ・ 通学路途中の歩道が極端に狭いところがあり、国道で交通量が多いため、危険を避けるため車で送り迎えをする保護者が多いのが現実。
- ・ 来年度の通学路点検で、具体的に危険箇所を挙げ、歩道を拡張する・広い歩道への車の乗り上げをブロックするポールを立ててもらうなどの要望をしてほしい。
- ・ 体力づくりに関して、子どもが外で遊びたくなるような遊具の設置を要望してはどうか。
- ・ アンケート項目⑪「きまりやルールを守って生活している」の、「きまりやルール」は単なる学校のきまりや交通ルールであるのか。そうであるとしたら、これとは別に、人間として許されないことは絶対してはならないのだということを意識づけるためにも、「わたしは人を傷つける言葉を言っていない」「わたしは友だちをいじめていない」といった項目を設けてほしい。
- ・ 児童は教師の言葉に敏感。同じ言葉でも教師の気持ちが伝わる場合と伝わらない場合がある。教師と児童の人間関係が大事。それがあって初めて強い指導もできる。
- ・ 家庭での保護者と児童のコミュニケーションを密にするために、絵本「しゅくだい」にあるように、「家に帰ってお家の人にハグしてもらおう」といった宿題を出すといった工夫もできる。

6 今後の取組について（課題）

学校教育目標「ともに生きる力としなやかに伸びる力をもち、たくましく夢を追求する児童の育成」を実現していくため、次のように課題解決を図っていきます。

- (1) 将来の夢を意識させ、具体的な目標を設定して、主体的に学ぶ児童を育成するため、「何のために学ぶのか」学ぶ意義を理解させ、目標設定や家庭学習の相談にのるなど、スモールステップで児童に寄り添い、学習を支援してまいります。
- (2) 夢をもち、主体的に生きる子どもを育てるため、地域で活躍する人々や様々な分野で活躍する人との触れ合いを創出するキャリア教育に取り組んでまいります。
- (3) 阿南二中校区人権教育研究会の会場校となることを核として人権教育を深化させ、自他の命と人権を大切にする児童の育成に取り組めます。
- (4) 来年度創立150周年を迎えることを生かし、地域の人・もの・ことを生かした「ふるさと学習」を推進し、児童が故郷を愛し、誇りに思う機会を増やしてまいります。
- (5) 縦割り班活動を最大限に生かして異学年交流を活性化し、いじめのない仲間作りを推進するとともに、外遊びの魅力化をはかり、児童の体力向上を目指します。
- (6) 地域と連携した交通安全指導・防災教育をさらに推進し、児童の命を守るとともに、災害発生時に自分で判断して自分の命を守ることができる判断力・実践力を児童に育ててまいります。